

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 7 年 5 月 4 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490101163		
法人名	株式会社Gトラスト		
事業所名	グループホームA S A 楽々苑		
所在地	広島市安佐北区安佐町飯室1559-2 (電話) 082-573-5050		
自己評価作成日	令和7年4月1日	評価結果市町受理日	令和7年6月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490101163-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和7年4月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

幅広い年齢層の職員が日々コミュニケーションを取りながら業務を行っており、意見や提案がしやすい職場作りを目標としています。 性別、年齢、経験を問わずとても明るい職場であり、チームケアに活かすことが出来ています。 また、それぞれの年代の職員が揃っている事から、様々な視点で利用者を観察する事が出来ています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人理念や職員が研修から得た心に響いたフレーズを事業所が取り組むスローガンに掲げるなど、目標や目的をしっかりと定め統一した方向性を持ち日々のケアが実践できるように取り組んでいる。運営推進会議には行政や地域の方をはじめ、知見を有する者として福祉用具事業者や食事委託業者、地域にある他のグループホーム事業所などの参加があり様々な視点からの意見交換を行い運営に反映させている。防災への取り組みも定期的訓練をはじめ、法人内事業所間の協力体制を構築している。主治医を中心に訪問看護との連携により安心して医療やサポートが受けられる体制が整っている。職員間でも笑顔が絶えない居場所作りをしたい思いが共有され取り組まれている。年齢層も多層からなる職員がそれぞれの個性や視点を共有し、協力してチームケアに取り組んでおり、働きやすい職場環境を形成している。

自己評価	外部評価	項 目（ Aユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の「自然・安心・快適」を掲げ毎朝の朝礼において5Sと共に唱和を行っています。	法人運営理念を念頭に「使命感・責任感・帰属意識」を柱とし、利用者の命を預かっている意識を強く持ち支援に努めている。外部研修で、職員が印象に残ったフレーズである「言われるありがとうから言えるありがとう」を見え易い個所に掲げ、全職員で意識しながら取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣にスーパーやバスの営業所、タクシーの待機場所があり、事業所前の道が近隣の生活道となっている為、日常的に近隣の方と挨拶を交わすなど、お付き合いをさせていただいています。	法人グループとして町内会に属し地域との関わりを持ち、近所の方との日々の挨拶や法人管理者会議を地域の集会所で開催し接する機会を増やす意図を持ち行っている。中学校の職場体験受け入れや法人設立30周年記念行事では神楽団を招き、入場無料で地域の方へ参加を呼びかけた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の中学生の職場体験を受け入れ、高齢者や認知症の特性や対応方法、知識、技術を伝えた上で利用者とふれあいをしていただき、理解を深めていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に1回開催をしています。入居者の皆様のご様子や行事、事故の報告等を行う中で知見を有する方々に参加していただき、意見やアドバイスをいただいています。	地域包括支援センターや民生委員、法人内事業所、知見を有する者として、福祉用具事業者や施設の食事提供を委託している食品業者、地域のグループホーム事業所の参加があり意見交換をしている。入院中に床ずれができたケースに福祉用具事業者の意見にて用具の調整を図った例がある。	会議に家族の参加がない状態である。家族への会議に参加を案内することや、議事録を全家族に送付し、運営や日頃の取り組み、運営推進会議への理解や周知の機会とすることで家族の参加など協力が得られるように期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護受給者の方からのグループホームへの入居相談や金銭の管理に関しては生活課・介護保険課等の窓口へ出向き各種相談を行っています。	運営上の疑問が生じた場合は直接役所に出向いて相談を行い、運営推進会議の議事録も担当課窓口を持参している。地域包括支援センターとも利用状況を伝えることや複数の地域包括支援センターに出向き関係性を構築している。市が主催する研修にも意欲的に参加している。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ Aユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束による弊害（身体的・精神的・社会的）を正しく理解する為、施設内研修や外部研修の参加を行い全職員に身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。 日中は玄関の施錠を行わない介護に取り組んでいます。	身体拘束禁止委員会を単独で開催し、研修や事例検討などを行い、身体拘束ゼロへ周知や理解を深めている。夜勤では、暴言・暴力的な介護を行わない、全ての人の尊厳を守るという虐待防止の合言葉を敷地内に隣接する事業所間で毎日連絡しあい注意意識を高める取り組みを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修の研修課題として取り組んでおり、行動や発語に関して注意しています。虐待に繋がるような言動がスタッフに見られた際には、個別に指導を行ったり、スタッフ会議を行っています。虐待防止の合言葉を作り、唱和も行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者の方の成年後見人制度の手続きがスムーズに行えるようにしています。又、施設内研修の中でも権利擁護に対して学べる機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に入居者、ご家族に十分に説明を行い、理解、納得をしていただき同意をいただいています。質問や不安に思われる事はご理解いただくまで説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見やご要望を細かくお応えする体制を取っています。電話や面会時にご家族から意見やご要望等があればお伺いし職員間にて共有して、利用者のご家族と話し合いを行い解決策や納得していただける方法と一緒に検討をさせて頂いています。	利用者には日々の生活から意見を伺い、出かけた希望に家族協力を得て連れて行ってもらうなど実現している。家族へは面会時や電話連絡の際に意見を聞く機会としている。衣類の状態について家族からの苦情があった際にもすぐに丁寧に説明し、理解を得て不安を取り除いた例がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ Aユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々、職員間でコミュニケーションを取ること、意見や提案をしやすい環境作りを心掛けています。又、会議等の際は意見を発言する機会を設け、聞くようにしています。	年2回職員面談を行い、個人における思いや意向の把握、目標への進捗・達成度を振り返っている。毎月の職員会議では管理者は職員が中心となって意見交換や進行ができるよう配慮し、職員の思いが表出できるよう工夫している。普段の業務において管理者へ気軽に話しや相談が行えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事評価を用いて、面談を行い管理者、職員の意見を取り入れ、実績や次への課題を把握するように努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に施設内研修を行ったり、外部の研修にも参加することで介護技術・知識の向上に努めています。研修にも参加しやすいように案内を行い、シフトの調整を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的（2カ月に1回）に運営推進会議を行い、参加していただく事で報告や相談を行い、サービスの向上に努めています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用開始前には必ず面談をさせて頂き、入居申込書への記入をしていただき、困っていることや、ご要望をご本人・ご家族からお聞きしています。その上でいただいた情報をもとにケアプランの作成や介助を行うことで信頼関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目（ Aユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居当初のご家族の不安や心配等の心中を察しご本人の様子等を細かくお伝えしています。お伝えすることによりご家族の思いを打ち明けて頂けるので、より良い信頼関係を作ることが出来ています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用に関して、急を要する場合も出来る限り対応を行うようにしています。グループホームがまだ早いと判断した場合は、近隣の介護付き有料老人ホーム等へ繋げる事もあります。グループ内の関連法人へ紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者と共に過ごしているという意識を基本として支え合う人間関係づくりを目指しています。昔ながらの生活習慣や行事についてもレクリエーションで取り上げると職員に対して助言や体験をお話しして頂けることもあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とグループホームが共に支えているという意識を家族にも持って頂き、日々の暮らしの中での出来事を共有しています。毎日の状況が分かるように請求書と合わせてお便りを送付させて頂いています。又、ホームページには写真等を掲載させて頂いたり、SNSでも掲載をさせて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	遠方の親戚がご来苑された時は面会時に関係性を確認し、個人情報保護に留意しながら近況をお伝えし関係性の維持に努めています。又、携帯電話を持参している利用者もおられますが、電話が出来る様に支援をしています。	利用開始時に本人や家族から生活歴やなじみに関して話を聞き確認している。友人や遠方からの面会には関係性を確認のうえ行っている。手紙も目の見えにくい方には職員がメッセージを読み、返信も手伝う支援にてやりとりの継続も可能としている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ Aユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係性を把握して、利用者間がこじれない様にスタッフが意識的に関わるようにしています。 又、孤立しない様に関わりやすい席の位置等も配慮し、利用者同士の交流を深める場となるように心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時にご家族には必要に応じて相談や支援に応じる用意がある事を伝えています。 又、退去後、他の事業所に入居された利用者の様子を電話で伺ったり、移動先の事業所からの問い合わせに対しお応えしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り利用者からの希望や意向を聞き取り、時にはご家族に相談を行い、本人の思いをくみ取れる様にしています。	日々の生活の中の関わりから意向を把握している。ケアプラン作成時にはケアマネジャーが個別面談を行うことや、時間を取って欲しいという希望にゆっくり一対一で話ができるよう環境を整え傾聴したりと対応している。自身で表出できない方には家族に話を聞き思いに寄り添っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントで把握できない事は、本人やご家族、以前の担当ケアマネや関係機関、知人等に情報収集をしています。情報収集した事は記録に残し職員間で共有を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人ひとりの介護記録により、健康状態、食事、水分摂取量など毎日記録をつけ生活情報が把握できており職員間で共有しています。		

自己評価	外部評価	項 目 (Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者の希望、現状をアセスメントし本人・ご家族・主治医の意見を取り入れながら介護計画を作成しています。	ケアマネジャーを中心に担当者会議を行い、訪問看護とも連携しながら本人の思いや希望をもとに取り組む内容を検討している。プランも日々のケアチェック表に実施状況を記載し振り返りや半年毎にモニタリングを行っている。歩行訓練で苑内三周するなど具体的な内容となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のご様子やケアの内容は業務日誌とケア樹（介護記録アプリ）に入力して記録しており、又、業務に入る前には各記録を用いて申し送りを行い情報共有に努めています。 又、介護計画の見直し等も行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人とのコミュニケーションやご家族への報告・連絡・相談を行うことで、ニーズをお聞きして対応出来る様に柔軟な姿勢で取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員の方と定期的にお会いし、情報共有・相談等を行うことで支援に役立っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居されるまでのかかりつけ医を継続されるか、グループホームの協力医を希望されるかを入居時に本人・ご家族に対しご意向を確認しています。 又、協力医以外の場合においてもご要望に応じて職員が同行等の支援を行っています。	受診は職員が同行し支援している。利用開始以前からのかかりつけ医も選択可能であることを伝え、本人の状態によって病院も選べることを説明している。眼科など専門科への受診も適宜行い、かかりつけ医への受診以外は別途費用を算定し同行支援を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと医療連携しており、日々の健康管理や、特変時の医師との連携を365日24時間体制での相談や指示がいただけるようになっていきます。助言をいただき日々の支援に活かしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、退院時には面談や入院先の担当者より情報を聞き取り、スムーズに受け入れが出来る様に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針を本人・ご家族、医療と共有し、十分に話を行い意志の尊重が出来るようにしています。事前説明・確認・同意を取り、各関係者と共有を行っています。	重度化や終末期への対応の方針を説明し、意向をもとに個々の状態状況に合わせ対応している。状態によって法人内の事業所に移るなど本人の希望や様子に見合う施設へ繋げることも多くある。看取りの場合は看取りのケアプランを作成し医療と連携しながら支援を行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルの整備や定期的な研修を行うことで、各職員が対応出来る様にしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼夜別で消防避難訓練を他事業所と連携し行っています。又、管轄の消防署からも助言や指導をいただきながら取り組んでいます。	年2回夜間想定も踏まえ避難訓練を実施している。事業所内合同で実施し、連携を深めており、複数ある法人内事業所との協力体制も確立しており有事に対応できるようにしている。事業所は水害が想定されるエリアとなっており垂直避難訓練やBCP(業務継続計画)を整えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ Aユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報保護方針の策定をしています。人生の先輩として教えてもらうこともあり、排泄介助等もさりげなく目立たない様に声かけを行い、プライバシーに注意して尊厳のある支援を行っています。	年1回プライバシー・個人情報保護について研修を行い理解を深めている。トイレ誘導時も職員は安全を確保した上で一旦トイレ内から出ることを基本とし、羞恥心や尊厳に配慮し支援している。接遇研修では接遇に伴うアンケートを実施しそれを元にディスカッションを行い意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の気持ちを表現し易いような声掛けを心掛けている。自己表現しにくい利用者に対しては、表情・しぐさ・声のトーンで読み取ることを心がけ、利用者の思いや希望に沿った支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事、入浴など個々に応じた体調や生活リズム、ペースに合わせた対応を心掛けています。利用者が主役となれるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者が更衣時に自ら服を選んで頂ける様に配慮し好みの服、着たい服を着て頂き、楽しんで頂ける様にしています。又、定期的に美容師に訪問をして頂き、本人の希望に沿った散髪を実施しています。又、ネイルを楽しまれる利用者もおられます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	洗濯物をたたんだり、トレイ、机拭きなど機能訓練を兼ねてできる事を実践していただいています。職員や利用者同士でお話をしながら和やかな雰囲気で行っていただいています。	三食の食事は委託業者が調理し、個々の嚥下状態に合う食事形態を選定しおいしく食べやすい食事を提供している。事業所が提供する食事やおやつは食事委託業者で作られた物と限定し、食事における衛生管理を徹底している。ノンアルコールビールや正月にお屠蘇でお酒を振舞うなどある。	

自己評価	外部評価	項 目 (Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	委託契約により必要なカロリーや栄養バ ランスが考慮されており、食事量、水分 摂取量を記録し常食・ソフト食・ミキ サー食等一人ひとりに応じた食事形態で の提供を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケア、定期的な歯科訪問診 療のケアで連携を取りながら支援をして います。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に一人ひとりの排泄状況 を記録しリズムの把握に努めています。 チェック表に基づいて早めのトイレ誘導 を行うことにより自立した支援を行って います。	排泄チェック表をもとに状況を把握し、 一人ひとりのリズムをみて早期のトイレ 誘導を行ったり、席を立つ行動など利用 者の動きから得られるサインを注視し自 立に繋がる支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘による身体状況、精神状況の変化を 重視し1日1,500ccの飲水を目指し、便秘 防止に取り組んでいます。便秘時には主 治医や訪問看護師に相談を行い指示をい ただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	週2回の入浴を実施しています。その日 の体調・気分に合わせて支援を行って います。体調不良等があれば、入浴日の変 更を行ったり、清拭を実施しています。	入浴介助する日を定め、入浴の日は職員 人数を多く配置している。一日を通して 入浴を実施することで、入浴のない日 は、レクリエーションなどの活動が充実 するよう時間配分を行っている。季節に 応じ菖蒲湯やゆず湯を行ったり、入浴剤 で気分を変え入浴を楽しめるよう工夫し ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ Aユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	本人の生活リズムに応じて休息 や安眠が出来るように支援して います。時にはアイスノンや湯た んぽにより気持ちよく安眠でき るように支援しています。 気温・室温の把握をして、その 都度衣服や寝具等の調整をして 安眠できる環境の整備を心掛 けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて います。	協力処方箋薬局により個人毎 に配薬を行っており、薬への理 解を深めています。薬剤師によ るアドバイスを日常的にいただ いています。内服する時には日 付・名前を職員2名で確認をし ています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	玄関の掃除、台所での食器洗い 等、自分の役割として毎日続け られるように職員の見守りのも と行っている。 好きなテレビや音楽などを観て もらい他愛もない話をして盛り 上がったり、沢山笑っていただ けるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	利用者の希望に応じて苑の庭、 駐車場等に出て日光浴や歩行訓 練を行っている。 ご家族の協力によりショッピング やドライブ、外食等季節ごとの 外出を支援しています。	日常は敷地内の散歩や向かいの 桜を観るなどレクリエーション の一環で外に出る機会を工夫し ている。家族へは外出協力を 広く周知し自宅に帰るなど、 外出できるようお願いしている。 外出しやすいよう家族との外 出時には、食事のキャンセル料 は請求しないなどサポートして いる。	外出の機会があまり持てない現 状がある。行事に趣向を凝らす ことや、近隣にスーパーがある 立地環境を活かし、買い物に 行くなど、工夫をしていくこと で外出の機会をより多く増やし ていけるよう期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	自分で金銭管理が出来る利用者 は少額の金銭をご自分の財布で 管理されておりご家族と相談 の上、新聞の購読料金や通信 販売の支払いを行われています。		

自己評価	外部評価	項 目（ Aユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持たれている利用者でも充電が出来ているかや、操作方法などをお伝えしたり、ご家族とお話出来る様に支援しています。 又、事業所へお電話をいただく事で本人とお話をして頂いています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせて装飾品を飾り、季節感を味わっていただいたり清掃を行うことで居心地の良い空間作りを心掛けています。	円卓を2か所設置し囲むリビングではきれいに清掃を行っており、移動する動線もしっかり確保し、ゆったり落ち着いて過ごせる環境である。利用者で作った季節の作品を掲示し、季節感を感じる事が出来るよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースにおいては、利用者同士でお話出来るように座られる位置も配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、今まで使われていた家具や思い出の品等を持って来ていただく様にお話をさせて頂いています。	ベッドやエアコン、カーテンが備え付けであり、そこに自宅で使い慣れたタンスやテレビ、ラジオや仏壇などそれぞれに大事にされていたものを持参し、過ごせるようにしている。居室は各階それぞれに壁一面の色を変更した造りとしており雰囲気も和らいだ居室空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者の状況に応じて歩行器や車椅子を使用していただき、又、扉への目印をつける事で利用者に分かりやすい工夫を行っています。 又、見守りやお声がけを行い安全に自立した生活を送って頂ける様に支援しています。		

V アウトカム項目（ Aユニット ）← 左記（ ）内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目（ Bユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の「自然・安心・快適」を掲げ毎朝の朝礼において5Sと共に唱和を行っています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣にスーパーやバスの営業所、タクシーの待機場所があり、事業所前の道が近隣の生活道となっている為、日常的に近隣の方と挨拶を交わすなど、お付き合いをさせていただいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の中学生の職場体験を受け入れ、高齢者や認知症の特性や対応方法、知識、技術を伝えた上で利用者とふれあいをしていただき、理解を深めていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に1回開催をしています。入居者の皆様のご様子や行事、事故の報告等を行う中で知見を有する方々に参加していただき、意見やアドバイスをいただいています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	生活保護受給者の方からのグループホームへの入居相談や金銭の管理に関しては生活課・介護保険課等の窓口へ出向き各種相談を行っています。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ Bユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束による弊害（身体的・精神的・社会的）を正しく理解する為、施設内研修や外部研修の参加を行い全職員に身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。 日中は玄関の施錠を行わない介護に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内研修の研修課題として取り組んでおり、行動や発語に関して注意しています。虐待に繋がるような言動がスタッフに見られた際には、個別に指導を行ったり、スタッフ会議を行っています。虐待防止の合言葉を作り、唱和も行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	入居者の方の成年後見人制度の手続きがスムーズに行えるようにしています。又、施設内研修の中でも権利擁護に対して学べる機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前に入居者、ご家族に十分に説明を行い、理解、納得をしていただき同意をいただいています。質問や不安に思われる事はご理解いただくまで説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見やご要望を細かくお応えする体制を取っています。電話や面会時にご家族から意見やご要望等があればお伺いし職員間にて共有して、利用者のご家族と話し合いを行い解決策や納得していただける方法を一緒に検討をさせて頂いています。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ Bユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々、職員間でコミュニケーションを取ること、意見や提案をしやすい環境作りを心掛けています。又、会議等の際は意見を発言する機会を設け、聞くようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事評価を用いて、面談を行い管理者、職員の意見を取り入れ、実績や次への課題を把握するように努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に施設内研修を行ったり、外部の研修にも参加することで介護技術・知識の向上に努めています。研修にも参加しやすいように案内を行い、シフトの調整を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的（2カ月に1回）に運営推進会議を行い、参加していただく事で報告や相談を行い、サービスの向上に努めています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご利用開始前には必ず面談をさせていただき、入居申込書への記入をしていただき、困っていることや、ご要望をご本人・ご家族からお聞きしています。その上でいただいた情報を基にケアプランの作成や介助を行うことで信頼関係作りに努めています。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ Bユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居当初のご家族の不安や心配等の心中を察しご本人の様子等を細かくお伝えしています。お伝えすることによりご家族の思いを打ち明けて頂けるので、より良い信頼関係を作ることが出来ています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用に関して、急を要する場合も出来る限り対応を行うようにしています。グループホームがまだ早いと判断した場合は、近隣の介護付き有料老人ホーム等へ繋げる事もあります。グループ内の関連法人へ紹介も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者と共に過ごしているという意識を基本として支え合う人間関係づくりを目指しています。昔ながらの生活習慣や行事についてもレクリエーションで取り上げると職員に対して助言や体験をお話して頂けることもあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族とグループホームが共に支えているという意識を家族にも持って頂き、日々の暮らしの中での出来事を共有しています。毎日の状況が分かるように請求書と合わせてお便りを送付させて頂いています。又、ホームページには写真等を掲載させて頂いたり、SNSでも掲載をさせて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	遠方の親戚がご来苑された時は面会時に関係性を確認し、個人情報保護に留意しながら近況をお伝えし関係性の維持に努めています。 又、携帯電話を持参している利用者もおられますが、電話が出来る様に支援をしています。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ Bユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士の関係性を把握して、利用者間がこじれない様にスタッフが意識的に関わるようにしています。 又、孤立しない様に関わりやすい席の位置等も配慮し、利用者同士の交流を深める場となるように心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時にご家族には必要に応じて相談や支援に応じる用意がある事を伝えています。 又、退去後、他の事業所に入居された利用者の様子を電話で伺ったり、移動先の事業所からの問い合わせに対しお応えしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り利用者からの希望や意向を聞き取り、時にはご家族に相談を行い、本人の思いをくみ取れる様にしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントで把握できない事は、本人やご家族、以前の担当ケアマネや関係機関、知人等に情報収集をしています。情報収集した事は記録に残し職員間で共有を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者一人ひとりの介護記録により、健康状態、食事、水分摂取量など毎日記録をつけ生活情報が把握できており職員間で共有しています。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ Bユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者の希望、現状をアセスメントし本人・ご家族・主治医の意見を取り入れながら介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々のご様子やケアの内容は業務日誌とケア樹に入力して記録しており、又業務に入る前には各記録を用いて申送りを行い情報共有に努めています。又、介護計画の見直し等も行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人とのコミュニケーションやご家族への報告・連絡・相談を行うことで、ニーズをお聞きして対応出来る様に柔軟な姿勢で取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員の方と定期的にお会いし、情報共有・相談等を行うことで支援に役立てています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居されるまでのかかりつけ医を継続されるか、グループホームの協力医を希望されるかを入居時に本人・ご家族に対しご意向を確認しています。又、協力医以外の場合においてもご要望に応じて職員が同行等の支援を行っています。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ Bユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションと医療連携しており、日々の健康管理や、特変時の医師との連携を365日24時間体制での相談や指示がいただけるようになっていきます。助言をいただき日々の支援に活かしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、退院時には面談や入院先の担当者より情報を聞き取り、スムーズに受け入れが出来る様に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針を本人・ご家族、医療と共有し、十分に話を行い意志の尊重が出来るようにしています。事前説明・確認・同意を取り各関係者と共有を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルの整備や定期的な研修を行うことで、各職員が対応出来る様にしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	昼夜別で消防避難訓練を他事業所と連携し行っています。又、管轄の消防署からも助言や指導をいただきながら取り組んでいます。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ Bユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報保護方針の策定をしています。人生の先輩として教えてもらうこともあり、排泄介助等もさりげなく目立たない様に声かけを行ない、プライバシーに注意して尊厳のある支援を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の気持ちを表現し易いような声掛けを心掛けている。自己表現しにくい利用者に対しては、表情・しぐさ・声のトーンで読み取ることを心がけ、利用者の思いや希望に沿った支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事、入浴など個々に応じた体調や生活リズム、ペースに合わせた対応を心掛けています。利用者が主役となれるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者が更衣時に自ら服を選んで頂ける様に配慮し好みの服、着たい服を着て頂き、楽しんで頂ける様にしています。又、定期的に美容師に訪問をして頂き、本人の希望に沿った散髪を実施しています。又、ネイルを楽しまれる利用者もおられます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	洗濯物をたたんだり、トレイ、机ふきなど機能訓練を兼ねてできる事を実践していただいています。職員や利用者同士でお話をしながら和やかな雰囲気で行っていただいています。		

自己評価	外部評価	項 目 (Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	委託契約により必要なカロリーや栄養バ ランスが考慮されており、食事量、水分 摂取量を記録し常食・ソフト食・ミキ サー食等一人ひとりに応じた食事形態で の提供を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケア、定期的な歯科訪問診 療のケアで連携を取りながら支援をして います。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に一人ひとりの排泄状況 を記録しリズムの把握に努めています。 チェック表に基づいて早めのトイレ誘導 を行うことにより自立した支援を行って います。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘による身体状況、精神状況の変化を 重視し1日1,500ccの飲水を目指し、便秘 防止に取り組んでいます。便秘時には主 治医や訪問看護師に相談を行い指示をい ただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	週2回の入浴を実施しています。その日 の体調・気分に合わせて支援を行って います。体調不良等があれば、入浴日の変 更を行ったり、清拭を実施しています。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ Bユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の生活リズムに応じて休息や安眠が出来るように支援しています。時にはアイスノンや湯たんぽにより気持ちよく安眠できるように支援しています。 気温・室温の把握をして、その都度衣服や寝具等の調整をして安眠できる環境の整備を心掛けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	協力処方箋薬局により個人毎に配薬を行っており、薬への理解を深めています。薬剤師によるアドバイスを日常的にいただいています。内服する時には日付・名前を職員2名で確認をして注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	玄関の掃除、台所での食器洗い等、自分の役割として毎日続けられるように職員の見守りのもと行っていただいています。 好きなテレビや音楽などを観てもらい他愛のない話をして盛り上がりたり、沢山笑っていただけるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の希望に応じて苑の庭、駐車場等に出て日光浴や歩行訓練を行っています。 ご家族の協力によりショッピングやドライブ、外食等季節ごとの外出を支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自分で金銭管理が出来る利用者は少額な金銭をご自分の財布で管理されておりご家族と相談の上、新聞の購読料金や通信販売の支払いを行われています。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ Bユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持たれている利用者でも充電が出来ているかや、操作方法などをお伝えしたり、ご家族とお話出来る様に支援しています。 又、事業所へお電話をいただく事で本人さんとお話をして頂いています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせて装飾品を飾り、季節感を味わっていただいたり清掃を行うことで居心地の良い空間作りを心掛けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有スペースにおいては、利用さん同士でお話出来るように座られる位置も配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、今まで使われていた家具や思い出の品等を持って来ていただく様にお話をさせて頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	利用者さんの状況に応じて歩行器や車椅子を使用していただき、又、扉への目印をつける事で利用者に分かりやすい工夫を行っています。 又、見守りやお声がけを行い安全に自立した生活を送って頂ける様に支援しています。		

V アウトカム項目(Bユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームASA楽々苑

作成日 令和7年5月30日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点, 課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	運営推進会議における 家族様等の参加。	家族様に運営推進会議 の参加して、活動内容 を知って頂く。	家族様へ運営推進会議 資料の送付し、知って いただき今後参加して 頂く。	12ヶ月
2	18	外出する機会を増やす。	近隣の商業施設などを 活用して、外出を行う 機会を増やす。	レクリエーション等で 買物や施設外に散歩等 行う。	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。